

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
61	川崎市立高津小学校	青木 あゆ子

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>た・楽しく追究し、ともに学ぶ子 (学ぶことに楽しさを見出し、自他の学びを最後まで追究し、協働して課題を解決しようとする、生きる力を持つ子)</p> <p>か・活力あふれる明るく元気な子 (未来に希望をもち、健康で安全な生活習慣を身につけ、まわりを元気づける強い意志を持った子)</p> <p>つ・つくすことに喜びを感じる心やさしい子 (勤労、奉仕、助け合いに喜びを感じて実行し、互いの個性を尊重しあう思いやりのある子)</p>	<p>(1) 知識・技能の習得をめざす、きめ細かな指導 ○生きて働く基礎的な知識と技能の習得と活用○情報収集・情報活用の技能の育成○学びと体験学習のつながりを重視した教育課程の改編</p> <p>(2) 思考力・判断力・表現力の育成 ○正確に伝え受け取ることばの力の育成○自力思考・自力判断の機会確保と思考力・判断力育成○相手意識をもった表現力の育成</p> <p>(3) 学びに向かう力・人間性の育成 ○健康・体づくりへの知識・関心の育成○安全・防災知識と技能の育成○多様性を認める思いやりの心の育成</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 知識・技能の習得 学び方の涵養	基礎的・基本的な知識や技能が身に付き、学んだ知識や技能が生活の他の課題に転用して使えるように授業を組み立て、カリキュラムを改編する。	約9割の児童が、「学習したことを活用できる」と肯定的な回答をしている。また、教員の中に授業スタイルが令和の日本型学校教育に対応していない場合がある。	校内研究授業や、校外の授業研究会、各種の研修会などを通して、令和の日本型学校教育に適した授業スタイルや授業価値観への転換を図る。
2 思考力・判断力・表現力の育成～言語能力～	正確に伝えたり、受け取ったりできるよう、教職員の言葉遣いに留意し、組み立てを考えて話したり、書いたり、伝えたりする。	約9割の児童が、「言葉遣いに気を付け、相手にわかりやすく話せる」と肯定的な回答をしている。また、言葉遣いが荒く、単語の羅列で話す姿も見られる。	授業中と休み時間などの場面や場合に合わせて、言葉遣いを選べるよう指導していく。特に授業中は、単語ではなく、適切に敬語を使い、文章で話せるようにしていきたい。
3 思考力・判断力・表現力の育成～情報活用能力～	必要な情報を集めたり、情報をつなぎ合わせたりして、新たな考えに気づくような授業づくりを行う。GIGA端末の積極的な活用を図り、情報モラルを醸成する。	課題に応じて必要な情報をGIGA端末などを活用して集めることができる児童が増えている。また複数の資料から考えを導き出すところは弱いと考えられる。	高学年になるに従い、複数の資料を集めて情報を組み立てて主張したり、表現したりできるようにしたい。また、情報モラルについては、継続して指導していく。
4 思考力・判断力・表現力の育成～問題発見・解決能力～	授業の中で、子どもたちの自力思考や自主的な判断ができるような場面や時間を確保し、新たな課題を見つけたり、解決方法を考えたりする授業づくりを行う。	自分の考えを持ち、他に影響されずに考え、判断して行動する力はついてきている。新たな課題に気づいたり、自分たちで解決しようとする意識はまだ弱いと考えられる。	特に、生活科や総合的な学習の時間のカリキュラムを工夫し、課題を発見したり、解決方法を見つけたりするような学習活動を増やすよう計画していく。
5 思考力・深い学び	授業の中で他者参照や新しい資料と出合うことで、初発の考えをより深めたり広げたりできるように授業づくりを行う。	他者参照や新しい資料により、学びが深まる機会は以前より増えている。深まった学びをよりよい表現につなげる学習活動が行われていくと、より思考力が鍛えられると考える。	GIGA端末の共有機能をもっと活用して、授業の中での他者参照や新しい資料を発見し、お互いに見つけたことを紹介しあって学びを深める学習活動を増やしていく。
6 体験とのつながり・深い学び	教室での学びと校外学習や体験活動、ゲストティーチャーとの交流などを意図的に計画し、児童の意識の中でのつながりをもった授業を計画する。	校外学習や体験活動は、行事として計画されており、事前学習も行われている。行事の中で、授業で学んだことに言及したり、気づいたりする力は弱いと思われる。	体験や校外学習の事前学習をより強化し、見聞きした中で授業とのつながりを感じたり、気づかせたりするような働きかけを増やす。また、体験後のまとめや発表活動を増やし、気づきの機会を増やし
7 相手意識・表現力	伝える相手を明確にし、目的に合った内容を選び、構成を考え、効果的に伝えることを意識できるように授業づくりを行う。	伝える相手がどのような人で、どのような情報を伝えるべきかを考えて表現する力がついてきている。また、GIGA端末を活用して表現する力は伸びている。	今後も、伝える相手を意識し、伝え方の工夫ができるように引き続き指導していく。また、多くの表現方法から目的に合った伝え方を選ぶ力もつけていきたい。

8	学びに向かう力の涵養	学習内容や学習計画に見通しを持ち、自らの学びの状況を確認したり、自己の学び方を選んだり、学びの状況に応じて学習計画を修正するなどの機会をつくる。	必要なことを調べることに興味をもち、調べる力もついている。自己の学び方を選んだり、学習計画を修正するような学習は、まだまだあまりおこなわれていない。	学年が上がるにつれて、学習方法の引き出しを増やしていく。また適切に学び方を選んだり、自己の学びを計画したり、修正したりするような学習活動を増やしていく。
9	健康な生活・丈夫な身体づくり	体育や機会を見つけて運動量を確保し、健康に関する知識や技能が身に着けられるように計画的に指導する。	低学年や中学年では、健康に気をつけ、運動しているが高学年では運動量に個人差が大きい。柔軟性はあるが、瞬発力や持久力に課題がある。	体育の中で、瞬発力や持久力をつけるような運動を多めに取り入れるようにする。コーディネーション・トレーニングなどを通して、教員の研修機会を増やす。
10	安全・自律	避難訓練などの行事や日常の機会をとらえて、安全や防災の意識をもてるよう、学習を計画する。自分で自分の身を守る知識や技能が身につくよう指導する。	全学年を通して、「一人である時に災害があっても、どう行動したらよいかわかる」と答える児童が増えた。引き続き、自分で自分の身を守るよう指導を続ける。	避難訓練や事前指導などをより具体的、実践的な内容に変えていく。動画なども使い、実際の場面などが想像できるように指導の機会を増やす。
11	共生・協働	各自の良さを生かし、グループや集団の力で課題に向き合えるような学習活動を計画し、実践する。集団の仲間に思いやりをもてるように働きかける。	目的を意識し、自分の役割を最後までやり遂げようとする気持ちは育ってきている。特に高学年で、目的意識をもち、やり遂げる気持ちを持つ児童が増えた。	前期に比べ、後期になると仲の良い仲間との活動に限定されている様子がある。さまざまな集団で協力し、課題を解決する学習活動をより経験させていきたい。
12	共生・人間性の涵養	相手の気持ちを想像して思いやり、ふさわしい言葉を発したり行動したりできるよう、道徳をはじめとした授業中や、日常的な機会をとらえて指導する。	低・中学年では、周りの友達に対して思いやりの気持ちをもち、よりよい言動を心掛けているが、高学年では仲の良い友達との関係に限られる様子が見受けられる。	場面に応じ、ふさわしい言葉を発したり行動したりできるよう、道徳をはじめとした授業中や、日常的な機会をとらえて指導することを意識的に継続していく。
13	公平・平等・いじめ防止	ともに生きるすべての児童、保護者、地域の方、教職員に思いやりの気持ちをもち、公平に接する。また、その気持ちを子どもたちに育てる。	低・中学年では、公平に接する気持ちをもち、よりよい言動を心掛けているが、仲の良い友達との関係に限られる様子が見受けられる。	すべての人に対して公平に接することは、いじめを防ぐことに直結する。公平に接する気持ちや態度を小さい時から意識して全校で育てていきたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
豊かな歴史をもつ学校であり、児童数が多いため活気があり、多様性がある。子ども達の様子は明るく、通学の様子も一列に並んだり、元気よくあいさつしたりしている。運動会の練習や本番などを見ても、先生方の活発さや指導のいいいさを感じる。学習活動では、授業中においても、家庭においても端末を活用しており、宿題でも家庭科や音楽の作品提出をするなど、新しい教育に対応している様子が感じられる。春から一貫して、「安全や安心な学校」を目指す様子が見られ、防災意識が高くなっている。	今年度は、特に防災対策に力を入れ、地域の方々との連絡、調整を行って高津小学校の避難所ガイドを完成し、保護者や地域と共有することができた。また、児童の防災教育を改善し、自分で自分の身を守る子を育て、ある程度の成果が得られた。校内研究授業を充実させることによって、令和の日本型学校教育への転換を進めてきた。特に、GIGA端末の活用や家庭への持ち帰りにより、授業と家庭の学習の連携を強化した。また数年来続いてきた児童や教職員の課題をひとつずつ解決してきた。教職員の業務では校務のICT化を行い、働き方改革を進めた。今後も、川崎市学習状況調査の結果等を踏まえ、授業改善を図りたい。